

題として残し、参考にさせていただく意味で当部での研究者達のタイプを紹介する。年齢の中心は30歳代で皆若い。仕事には知力と体力を必要とするが、両方を兼ねこなえた人は少数で、いずれかに偏っている。したがって、どちらのタイプの方でもやっていける。ただ、仕事

に対する情熱は人一倍強く、また知識欲も旺盛である。研究に自分の世界を持っている人が多く、こういう連中と議論をしていると楽しい。独立心とプロ意識の強かった先輩諸氏の伝統は生きており、研究を進める上でこれを大切にしている。

==== 会員の広場 ====

初の沖縄大会に参加して

丸山 健人*

初の沖縄大会に参加できたことをうれしく思います。会場に入るとまずソテツとアダンの大きな生け花の歓迎をうけましたが、地元のみなさんの心のこもった歓迎、ほんとうにありがとうございました。

研究発表は三日間とも盛況で、地元からの発表もかみあっていました。また、韓国気象学会長の講演や、中国の女性予報官による日本の数値予報のユーザーとしての評価についての発表など、大会は国際的にもなりました。シンポジウムのテーマ「台風」は地元にもふさわしく、司会者を困らせるような発言も出てきたりして、興味ぶかいものでした。懇親会では沖縄の方々ともお話しすることができ、交流をひろげました。琉球舞踊をまじかにみることができ、カチャーシーにも参加させていただきました。楽しくすごさせていただきました。

大会の前日には、新庁舎に移った気象台を見学させていただきました。いわゆる「リゾート」開発関連の問い合わせが多いと聞きました。深刻な水不足や大型台風の襲来を考えると、「リゾート」気象・「リゾート」防災は

大きな課題であると感じました。また大会の翌日には糸数レーダー観測所を見学させていただきました。最近では学会参加者でも気象観測の現場を見る機会が少なくなりました。なお欲をいえば、気象官署めぐりのツアーもと思いました。

大会の準備に当たった方々のほとんどは、本土での大会に参加されたことがなく、気象学会の大会に初めて参加されたとのことですが、私にとってもこのように豪華な大会は初めてです。これを前例にされては困る、との声も聞かれるほどでした。いま沖縄気象台史を編集しておられるとのこと、学会の行事ではありませんが、気象台史に大きく加えられるイベントであったと思います。県、市をはじめ地元からのバックアップ、気象台をあげての職員の協力が大会の成功を支えました。ご苦労さまでした。ありがとうございました。

すばらしかった沖縄大会。しかし、沖縄本島南部戦跡には、旧沖縄地方気象台最後の地に「琉風之碑」があり、現実には全島にひろがる広大な米軍基地・施設。平和と気象への思いを新たにさせられました。

* 気象研究所